



悶々!
問題児ハーレム!!!

~中二病、メンヘラ、アホの子な問題児たちですがマ♡コは優等生でした~

成人向けCG集
基本CG12枚 本編枚数283枚



秋津 紅里 (あきつ あかり)

154m

86/54/87 (Fカップ)

小さい頃から自分のことを魔法使いだと思っている中二病少女。

総吾のことを「運命の使い魔」だと言っている。中二病的な言動が多いものの、実は頭がよくて成績だけは優秀。

陥没乳首に関してコンプレックスで、胸を見せることが少し恥ずかしい。

興奮したり、強い快感を得たりすると乳首が勃起♡セックスをした時にはすごく感じながら乳首がしっかり顔を出す♡



氷室 聖良 (ひむろ せいら)

157m

93/57/90 (Hカップ)

普段は温厚だが、時折情緒が不安定になるメンヘラな女の子。

総吾に対して純粹に好きだと告白していて一度断られたものの、今回のグループワークで距離を縮めようと考えている。

総吾とエッチなことをするのに憧れていた。

総吾が紅里や菜央とエッチしたことを方法は不明だが把握している。そして総吾が自分以外とエッチした後は、総吾は自分のものとはばかりに激しめなエッチをする。



桜野 菜央 (さくらの なお)

157m

89/56/88 (Gカップ)

容姿は優れているが、ポンコツ気味でアホの子扱いされている美少女。

初めて総吾と会話をした時から彼が自分に対して好意を抱いていると勘違いをしている。

羞恥心が薄く、また性知識がほとんどないため、エッチなことに関して躊躇なく、むしろ好奇心に押されて積極的に行う。

エッチなことを知ってからは偏った性知識で総吾を困惑させながら、大興奮させる♡

朝のホームルームが終わって、
俺はとある空き教室の前まで来た。

教室はここだよな…

この学校では二年生になると、他のクラスの生徒とグループワークを行う授業がある。

そして今日はこれからグループワークのために学校から割り振られた空き教室でグループのメンバーとの顔合わせをする。

ちなみにグループは他クラスであれば自由に組めるのだが、あいにく自分はぼつちで陰キヤなため、この学校に友人と呼べるような相手はいない。

そのため俺と同様に組むことができなかった生徒とグループを組まされることになる……それはいいのだが――

グループを組む相手の名前を聞いて思わず頭を抱えた。

はあ……

まさかあの三人と
グループを組むことになるなんて……

正直、不安しかない

でもグループワークは
避けようがないし
仕方ない、か……

覚悟を決めて俺は扉を開けた。

アッ



扉を開けると三人の女生徒が
待ち構えていた。

俺はこの三人のことをよく知ってる。

いや、俺だけでなく校内の誰もが
彼女たちのことを知っているだろう。

ようやく来たか岡田総吾
我が使い魔よ

秋津紅里。
自分のことを魔法使いだと思っ
ている中二病少女。

中二病的言動で周囲を困惑させ、
時折黒板や校庭に魔法陣を描くなど、
周囲を驚かせる。

ちなみに俺のことを
運命の使い魔だと思っ
てらる。

こんにちは総吾くん♡

ひむろ せいり
氷室聖良。

普段は温厚だが、時折情緒が不安定になるメンヘラ少女。

よく授業をサボる。授業中でも突然教室から出て行くことがあり、サボる理由は好きな人に会いに行くためとのこと。

ちなみに好きな人と言うのは俺のことらしい。

あー！
総吾遅刻だよー！

さくらの なお
桜野菜央。
試験で全教科一桁を叩き出し、
予測不可能な思考による言動で、
周囲からアホの子と呼ばれている少女。

先の二人と比べたらまとものように
見えるが、かなりのポンコツで、
卒業できるのか危ぶまれている。

ちなみに彼女は自分のことを
俺が好きだと勘違いしている。

三人はこの学校で名高の問題児。

そして俺は彼女たちから
なぜか好かれている。

おかげでぼつちな陰キヤである
俺のことを知っている者も多い。

他にもグループが組めなかった
奴はいるだろうに…

問題児が三人固まるなんて
絶対意図してやっただろ



グループワークは
やる気ある奴に進行を任せて
楽しかったのにな…

俺をこいつらの
保護者だと思ってるのか？

我が使い魔よ
浮かない顔をしてどうした？

どうしてお前たちと
同じグループになったのかと
思ってたな…

そんなことか…
我と使い魔との繋がりには
決して切れぬもの

同じグループに
なることなど必然だ



総吾くんと一緒に
グループになれて
私は嬉しいよ♪

先生にいつぱい
お願いしたおかげかも

…いつたいどれだけ
お願いしたんだ？

それはもう…
ホームルームに授業中、
それから職員室にも行って

何度も総吾くんと一緒に
グループになりたいって
お願いしたの♡





今日言われて
初めて知ったよ!


あはは!
グループワークなんて
あったんだね!

いや、かなり前から
グループワークのことは
言われてただろ?

そうだったっけ?
まあ総吾がいれば
大丈夫だよな!

すっごく優しいし!


.....



菜央から『すっごく優しいし!』と言われて、彼女たちから好かれる原因となった時のこと、彼女たちと初めて会話をした時のことを思い出す。

それほど大した出来事ではない。

紅里は他クラスとの合同授業で隣の席になって、教科書を忘れたらしい彼女に声を掛け、自分の教科書を見せてあげた。



聖良は廊下で擦れ違った時に
彼女がよろけて自分に軽くぶつかって、
荷物を落としてしまったので
それを拾って渡してあげた。

菜央は炭酸のジュースを、炭酸と
わかっていなかっただのか、思い切り
振って開けて、中身を顔面で浴びたのを
目撃してハンカチを貸してあげた。

そんなちよつとした善意の行動。
感謝されるにしても、一言お礼を
言われるぐらいのものだ。

だが、三人は違った。

紅里と聖良からは
気に入られて告白されて…

いや、紅里の場合は
運命の使い魔だって言われて
告白とは違うか？

菜央に関しては…

あたしのこと好きなんだ！
いいよ！ 付き合っただけあげる！
って言われたなあ…

優しくしてくれた…
つまり自分のことが好き…
どんな思考回路をしてるんだ



紅里と聖良はきりのぱりと断り、
菜央に関しては否定した。

だが、それでも三人は俺にのきまってる。
(菜央の場合は俺が照れてるのだから
酷い勘違いをしてる)

俺も強く突き離せないのは
悪いのかもしれないけどな…


無視することとはできず、
話し掛けられたら普通に会話をすること
困っていたら手助けしてしまおう。

なんやかんやお互い
名前で呼び合うように
なってるし…

はあ…とにかくこの三人で
グループワークをしないとな…

こうして問題児の彼女たちとの
グループワークが始まった。





グループワークは研究テーマを決めて、
それについて調べて発表するものだ。


だからテーマを決めようと
話し合いをするのだが、
案の定そこで躓くこととなる。

紅里が『魔法について』
聖良が『愛について』
菜央は『美味しいものについて』と
それぞれ異なるテーマを主張する。

三人は自分が提案した
テーマを推し続けた。

このままでは埒が明かないので
各自のテーマを紙に書いて
くじで決めることにした。

最も安牌なのは俺のテーマ、
戦国時代についてなのだが…
くじの結果、紅里の案に決まった。

A character with dark purple hair, wearing a black witch hat with a red bow, a white shirt with a brown bow tie, a dark green cardigan with red lining, and a plaid skirt, stands in a classroom. She is smiling and covering her eyes with her right hand. The classroom has wooden desks and chairs, a blue chalkboard, and a window in the background. A red speech bubble is on the right, and a purple 'X' mark is above her head.

ふはははっ！
我が魔法がついに
表舞台に出るのだ！

正直、魔法についてどのようなことを
調べればいいのかわからないが、
決まってしまうものは仕方ない。

不安だが紅里を中心に
調べるしかないだろう。

それからネットや紅里が持つてきた
触れただけで呪われそうな
不気味な本などで調べていく。

ちなみにこうした調べる時間などは
授業として時間が設けられているが、
それで時間が足りなければ
放課後に行くことになっている。

そして紅里がやる気満々で
放課後も調べると言い出す。

彼女が暴走して校庭に魔法陣を
描くかもしれないと、不安を覚えて
週に何日か作業日を決めて
放課後一緒に調べることにした。

すると他の二人も放課後残って
作業をするのだが――

ある日。

ごめんね総吾くん
家の用事で今日はどうしても
帰らないといけなくて…

総吾くんが頑張ってるのに…
ごめんね…ごめんね…

うー！ 補習嫌だー！
絶対に行かないって…
あつ、先生、や、やめっ…

うわあああああああ…！

本当に申し訳なさそうに、
暗い表情で帰宅した聖良。

そして補習から逃げていたところ、
教師に強制連行された菜央。

この日の放課後は紅里と二人きりで
調べることになった。



…それにしても
紅里があんなに頭がいいなんて

ふと作業をしている
紅里を見ながらそんなことを思う。

グループワークをするようになって
彼女たちと過ごす時間が増え、
今まで知らなかった一面が見えてきた。

魔法に関する知識だけかと思っただが、
たまたま見た試験の答案用紙には
自分では取ったことがない高得点が
記載されていた。



普段の言動で
頭がいいなんてまったく
思わなかった

…よく見れば
可愛いし、胸も…大きいよな

おはっ

他の二人もよく考えてみると
美少女と言えるルックスだ

普段の言動があまりにも
アレ過ぎて…他の部分が
全然見えていなかった

…そ、
総吾

そんなふう
に胸を見ら
れると…
落ち着かぬ
のだが…

あっ！
わ、悪いっ！

紅里に指摘されてしまったら
彼女の胸を見ていたことに気付ら
ず慌てて目を反らす。



…しかし総吾が我のことを
女として意識してくれたのは
これが初めてか

他の二人がおらぬ今が
もしや契約を交わす
絶好の機会かもしれぬ…よし

総吾
ちよつと立ってくれるか？

えり？
あ、ああ…

紅里の胸を見てしまったってらたことと
動揺していた俺は彼女の言葉に
反射的に立ち上がる。

すると――

よっよっ……

なっ!?



突然ズボンのファスナーを下ろされて、チ●ポを引つ張り出されてしまう。

いきなりのことだに困惑している俺をよそに紅里はチ●ポの感触を確かめるように、無遠慮に手を動かす。

しゃん

しゃん

おお……これがチ●コ……

どんどん硬く、大きくなっていくな

お、おいっ
何してるんだっ

恥ずかしがるな
これは主従契約の儀式

総吾は大人しく
立ってればいい

いや、儀式って…
こんな儀式があるわけ…っ！

ニヤリ

別に嫌というわけでは
ないだろうか？

ここがいきり立つということは
儀式を望んでいるということだ

素直に儀式を
受け入れるといい

それに性の象徴を晒すのは
おぬしだけではない…

オオオオオ

オオオオオ

オオオオオ



!!?

Bishoujo

この儀式は
互いの性の象徴を晒し…

使い魔となる者の
精を取り込むのだ

これから本格的に儀式を進める
おぬしは我慢せず、
快樂に身を委ねるといい

そう言って紅里は
手コキ、フェラを始めた。

女性経験のない俺にとっで、
その感覚は初めてのもので
抵抗する気が起きなくなっでらた。

それに紅里の胸から目が離せなう。

ちゅぽ

んちゅ

あは

しゅぽ
しゅぽ

紅里のおっぱい…
生で見ると一段と大きく見えるな

AVで見るとよりなんかエロい

それにいわゆる
陥没乳首ってやつだよな？

おっぱい
すっ
すっ
すっ

ん
ん
ん

すっ
すっ
すっ

すっ
すっ
すっ

余計エロくないか…？

すっ
すっ
すっ

もじっ

もじっ

そ、総吾…その…
あまり見ないでほしい

乳首が引っ込んでいるのは
少し恥ずかしい、のだ…

ちやう

みみ

すりっ

みみ

しり

そう言うので若干中二病の仮面が外れて
恥ずかしそうにするが、胸を隠そうとは
せず、手コキとフェラを継続する。

隠さない胸から俺は目を
逸らすことはできなかつた。

うっ…そんなに見たいのか…

い、いいだろう…元より
この儀式は互いの身体を
晒さなくてはならないもの

それに、おぬしのが…
ますます大きくなっているぞ

しゅ
しゅ

はははは

しゅ
しゅ

私の胸で昂ぶっているのか？

だ、だったら…見ればいい…
そして精を思う存分
吐き出すのだ…！

ちゅぽ

どうだ？
気持ちいいだろう？

チ●コがヒクヒクと震えて
今にも精を吐き出しそうだ

はっ

我慢せずに出すといら

レリユ

どきどき

ちゅ

すりっ

どきどき

それで契約は成立する

んん

どきどき...

ぬちゅん

契約などは知ったことではなりましたが、もう限界なのは間違いない。

ただ、俺の最後の理性がそのまま出してららのかと射精を引き止めている。

レリユ

ちゅ

んちゅ

くちゅ

んんんん

するとその理性を取っ払うかのように唇をチ●ポの先へと重ね、吸いつく。

はあ

はあ

これが精液…
白くて、ドロツとして…熱い…
それにすごい匂い…

んぐう、ごく…んんう…
喉に引っかかる…んふう…

んんん…

ちちち

おっ！

回内に出した精液を
一生懸命飲み込もうとする紅里。

俺は今まで経験したことのない
射精感の余韻から抜け切れず、
その様子をただ見守っていた。

んんん…

はーっ

ニヤリ

まだ口の中や喉で
多少引っかかっているが…
飲み込めたぞ

はーっ

これで主従の契約は完了だ



その後、行為を終え、制服の乱れを直す紅里を見て、ふとずつと気になつていたことを尋ねる。

なあ、どうして俺のことを運命の使い魔だと思ふんだ？



……

俺の問いかけに対して紅里は一瞬間を開けてから口を開く。

総吾だけだったからな…
我と普通に接してくれたのは

他の有象無象とは違い、
我に手を差し伸べてくれた
唯一の存在…

それに一度だけでなく、
我との語らいに
付き合ってくれたであろう？

とても心が躍った…

…つまり俺が優しくして
その後も普通に接したからって
ことなのか？

それだけで…

些細なことかも知れない…
だが、我にとっては違う

…いや、我だけでなく
他の二人も同じだろうな

え？



A character with dark purple hair, wearing a black witch hat with a red ribbon, a white shirt with a brown bow tie, a dark green cardigan with red lining, and a brown plaid skirt, stands in a classroom. She is smiling and covering her eyes with her right hand. The classroom has wooden desks and chairs, a blue chalkboard, and a window with a view of the outdoors.

喋りすぎた
今日は帰るとしよう

…そうだ
一つ言い忘れていた

今日の儀式は仮契約の儀式だ
また本契約の儀式を執り行う

その時を待つがいい

そう言い残して紅里は
教室から出て行った。

翌日の昼休み。

昨日の紅里との行為が頭から離れず、
彼女と会ったら気まずいなと思っただが、
幸い今日はグループワークはない。

そう安堵して
昼食を取るため食堂へと向かうため
席から立とうとする——

総吾くん

聖良の聲がして振り返る。

A pink-haired anime girl with purple eyes, wearing a school uniform with a white shirt, a pink bow, a pink cardigan, and a plaid skirt, stands in a classroom. She is looking towards the viewer with a slight smile. The classroom has wooden desks and chairs, a chalkboard, and a door in the background.

せい、ら…？

そこには微笑む聖良がいた。

だが、なんだかその目は
仄暗い闇を秘めているようで怖かった。



聖良に言われるがまま、
俺は教室を出た。

あ、ああ…

ちよつと来てくれるかな？

聖良は教室から離れたところにある
女子トイレに連れて来られて、
個室の一つに入る。



女子トイレに入ること躊躇したが、
彼女の有無を言わさぬ目に圧倒され
大人しく従った。

総吾くん座って…
ジツとしててね



この続きは、本編でお楽しみください！！

ふふふ…
総吾くんのおち●ち●
挟んじゃった♡

聖良にズボンを下着ごと脱がされ、
便座に座らされると、彼女は目の前で
惜しげもなく胸を露出して
そのままチ●ポを挟んでしまった。

おにやう

おにやう